

建礼門院と阿波内侍

1155年に生まれた建礼門院は太政大臣平清盛の娘。16歳のときに入内し、1172年に後白河法皇（77代天皇、在位1155-1158年）の四男・高倉天皇と婚姻した。そのとき、上皇はすでに譲位し出家して、法名を行真としていた。1172年に建礼門院と後白河の四男、高倉天皇と婚姻した。1178年に言仁親王が生まれた。2年後、激しい内乱のさなか、高倉天皇はまだ幼い言仁親王に譲位することを強いられた。親王は安徳天皇として即位した。

1185年4月25日、平家と源氏の壇ノ浦の合戦が現在の山口県下関の近くで起こった。平家は壊滅し、平家の武士たちの多くは降伏よりも自ら海に飛び込んで死ぬことを選んだ。伝説では、建礼門院もまた入水自殺を試みたが、長い髪を鋤で掴まれて引き上げられたという。

1185年5月、29歳の建礼門院は剃髪して尼僧となり、同年5月に大原に入り寂光院に住むようになった。その死まで、忠実な侍従の阿波内侍に付き添われた。建礼門院は壇ノ浦の合戦で溺死した息子やその他の平家の人々の魂のために祈りを捧げて生涯を過ごした。36歳で死去し、その亡骸は寂光院の敷地内に埋葬された。